



平成 26 年 7 月 31 日

各 位

上場会社名 昭和 電 工 株 式 会 社  
 コード番号 4004 東証第1部  
 代表者 取締役社長 市川秀夫  
 問合せ先 財務・経理部 IR室長 加藤信裕  
 TEL (03) 5470 - 3323

投資有価証券評価損(特別損失)の計上、第2四半期累計期間業績予想との差異、  
 および通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、第2四半期累計期間において投資有価証券評価損を計上しました。これに伴い平成 26 年 2 月 13 日に公表しました平成 26 年 12 月期第2四半期累計期間連結業績予想と、本日公表の実績に差異が生じたのでお知らせいたします。また、上記に加え最近の業績動向を踏まえて、平成 26 年通期連結業績予想を修正いたします。

記

1. 投資有価証券評価損(特別損失)の計上

当社が出資するベネズエラのアルミニウム製錬会社ベナルム社株式につき投資有価証券評価損を 40 億円計上しました。ベナルム社は同国国営のアルミニウム製錬会社であり、当社他の日本企業が一部出資しております。同社の業績悪化に伴い評価損を計上したものです。

2. 平成 26 年 12 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想値と実績との差異  
 (平成 26 年 1 月 1 日～平成 26 年 6 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (平成 26 年 2 月 13 日発表)	百万円 405,000	百万円 8,000	百万円 5,000	百万円 3,000	円 銭 2.00
実績値(B)	413,606	10,542	7,210	△3,433	△2.29
増減額(B) - (A)	8,606	2,542	2,210	△6,433	
増減率(%)	2.1%	31.8%	44.2%	-	
ご参考 前期第 2 四半期累計期間 (平成 25 年 12 月期)	401,409	6,723	5,387	2,158	1.44

3. 差異が生じた理由

売上高は、主に石油化学セグメントにおいて原料ナフサ価格が上昇し、その影響により製品販売価格が上昇したため増収となりました。

営業利益は、化学品セグメント、アルミニウムセグメントは主に原料高により前回予想を下回りましたが、エレクトロニクスセグメントでは HD 事業が改善し、石油化学セグメントではオレフィン事業で石化需給が堅調に推移し、総じて前回予想比増益となりました。

経常利益は営業利益の増益により増益となりましたが、四半期純利益は上記の投資有価証券評価損の計上と税金費用の増加もあり前回予想を下回りました。

4. 平成26年12月期通期連結業績予想の修正  
(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成26年2月13日発表)	百万円 890,000	百万円 32,000	百万円 25,000	百万円 12,000	円 銭 8.02
今回修正予想(B)	895,000	32,000	26,000	7,000	4.68
増減額(B)－(A)	5,000	0	1,000	△5,000	
増減率(%)	0.6%	0.0%	4.0%	△41.7%	
ご参考 前期(平成25年12月期)	848,071	25,953	23,488	9,065	6.06

5. 通期業績予想修正の理由

売上高は、主に第2四半期累計期間における石油化学セグメントの増収の影響を受け小幅に上回る見込みです。営業利益は、第2四半期累計期間は前回予想を上回りましたが、期後半は、主にアルミニウムセグメントがアルミニウム地金高騰の影響を受け前回予想に届かない見込みであり、総じて前回予想を据え置きます。経常利益は小幅の改善を見込むものの、当期純利益は、第2四半期累計期間の未達を期後半で補えず、通期予想を減額いたします。

以上

注. 上記予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日における仮定を前提として作成したものであり、実際の業績につきましては、さまざまな要素により、予想数値と大きく異なる場合があります。業績に影響を与える要素には、経済情勢、ナフサ等原材料価格、製品の需要動向および市況、為替レートなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。